

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第8号

果 樹

発行日 平成28年10月27日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 晩生種は食味を重視し、適期収穫に努めましょう！！
- ◆ 「ふじ」は平年並に成熟！！越年販売時の果肉の軟化に注意しましょう！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点（表1）の「ふじ」の果実肥大（横径）は、開花が早かったため、平年並からやや大きめとなっています。

表1 県内の定点観測地点における果実肥大（横径）状況 （単位：mm）

市町村	地区	ふじ(10月11日時点)				
		本年(H28)	前年(H27)	平年	前年比(%)	平年比(%)
農業研究センター		90.3	90.0	88.1	100	102
岩手町	一方井	85.8	88.6	87.9	97	98
盛岡市	三ツ割	90.8	93.2	87.3	97	104
紫波町	長岡	90.3	90.8	89.2	99	101
花巻市	中根子	86.6	86.4	85.7	100	101
北上市	更木	93.7	89.0	90.0	105	104
奥州市	前沢区稲置	88.9	87.5	89.0	102	100
	江刺区伊手	86.7	85.0	85.7	102	101
一関市	花泉町金沢	85.5	86.7	85.2	99	100
	大東町大原	90.8	90.1	87.2	101	104
陸前高田市	米崎	90.8	90.1	86.8	101	105
宮古市	崎山	96.8	92.0	88.8	105	109
岩泉町	乙茂	97.2	89.4	88.2	109	110
二戸市	金田一	93.4	95.2	89.4	98	104
県平均(参考)		90.6	89.5	87.7	101	103

※ 県平均値に農業研究センターの数値は含まれていない

(2) 果実品質

「ふじ」の果実品質（岩手県農業研究センター調査値）を平年と比較すると、硬度、糖度、デンプン指数は平年並ですが、蜜入りは遅れています（表2）。本年の早生品種、中生品種は着色期の気温が高めに推移したため、着色が遅れる傾向にありました。「ふじ」については、ほぼ平年並の成熟期になると思われますが、食味を重視し適期収穫を心がけてください。

ただし、今年は園地によって、硬度がやや低い傾向にあり、越年販売すると果肉が軟化する危険性があります。果肉の状態を随時確認し販売にあたってください。

表2 「ふじ」の果実品質経過 (岩手農研)

調査日	満開日 起算日数	硬度 (lbs)			糖度 (Brix%)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
9月30日	146	17.7	17.4	18.1	11.7	13.0	12.4
10月11日	157	16.1	16.8	17.2	13.4	13.7	13.2
10月21日	167	16.5	16.0	16.1	14.4	14.7	14.2
11月1日	178		14.5	15.2		14.2	14.7
11月11日	188		14.8	14.8		15.6	15.2

調査日	デンプン指数			蜜入り指数		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
9月30日	3.7	3.5	3.8	0.0	0.5	0.1
10月11日	2.8	3.0	3.3	0.7	0.4	0.6
10月21日	2.5	3.1	2.7	0.7	1.7	1.4
11月1日		2.0	2.1		2.1	2.0
11月11日		1.7	1.4		2.1	2.5

※ 満開日: 5月7日

※ 平年は、平成12年から27年の調査値の平均

2 管理作業

(1) 晩生種の収穫

「ふじ」は食味を重視して収穫しましょう。蜜入りを意識し過ぎて遅くまでならせると、果肉の軟化や果実の樹上凍結の危険、降雪による収穫の遅れが出てきますので、適期収穫を心がけます（表3）。また、養分の消耗が、樹体の凍寒害につながる恐れもありますので、注意してください。

表3 ふじの収穫開始期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	地色カラー チャート指数	デンプン 指数
ふじ	165~180日	14以上	14以上	4~5	1~2

(2) 果実の樹上凍結の回避

樹上で果芯部まで凍結した果実は、内部褐変、硬度の低下、食味低下など果実品質が低下します。特に常温においた凍結果実は内部褐変が著しく増加し、冷蔵貯蔵でも貯蔵20日以降は内部褐変する果実が増加することが認められています。

したがって、このような果実の樹上凍結を回避するために、販売時期からみた適期収穫期を守り、過度に遅い収穫は避けるようにしましょう。

もしも被害を受けてしまった際は、凍結果は押し傷がつきやすく品質の低下を招くので、樹上で解凍してから収穫してください。また、速やかに関係機関と協議の上、販売する場合は冷蔵貯蔵し、光センサー選果機等で褐変果を排除するようにしてください。

3 除草剤の秋期処理

「ふじ」の収穫後から落葉する前まで(落葉後は散布ムラが出るため)に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬頃まで雑草を抑えることができます。表4を参考に取り組みみてください。

秋は気温が低く、除草剤の効果が出るまで時間がかかりますので、草が枯れないからといって、再度処理する必要はありません。

なお、収穫後の秋期処理した除草剤は、翌年の農薬使用回数に含まれますので注意してください。グリホサート系除草剤(ラウンドアップマックスロードなど)は、風などで舞い上がり、樹体に付着すると、除草剤が直接付着しなかった枝でも、春以降に葉が柳葉状になる薬害を生じることがあります。グルホシネート系除草剤(バスタ液剤、ザクサ液剤など)は幹に薬剤が付着すると樹皮が粗皮状になり、幼木では枯死することもあります。除草剤を使用する際には、専用の散布器具を用いて、飛散しないよう注意しましょう。

表4 除草剤の使用体系(秋期処理)

優占草種	1回目(11月)	2回目(6月上、中旬)	3回目(8月上、中旬)
強雑草	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)
弱雑草	吸収移行型 (少量散布) または接触型	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)

注1)強雑草:タンポポ、クローバー、ヒメオドリコソウなど
(除草剤の効きにくい草種)

弱雑草:ハコベ、メヒシバなど(除草剤の効きやすい草種)

注2)吸収移行型:グリホサート系除草剤など

接触型:グルホシネート系除草剤、ジクワット剤など

注3)グルホシネート剤は「吸収移行型」と「接触型」の中間タイプであり、移行性はあるものの雑草の地下部まで枯殺する効果が期待できないため、使用体系においては「接触型」としての位置づけとしている。

次号は11月24日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

気をつけて! 互いに声かけ 農作業安全

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。